

# 2017年度 LET 関西支部秋季研究大会

10月14日(土) 流通科学大学(神戸) 講義棟 VI

## ＜午前部＞ 支部研究部会ワークショップ

ワークショップ1/ 今度こそキチンと学ぶ！構造化電子文書作成入門(WordからMarkdown、EPUBまで)  
＜電子語学教材開発研究部会＞ 木村 修平(立命館大学) 清原 文代(大阪府立大学) 6204教室(先着50名)

本ワークショップでは、再利用性の高い電子文書の基本的な作成方法とそのメリットを取り上げます。人間だけではなく機械にも扱いやすい電子文書の作成ノウハウは、残念ながら日本では十分に広まっていないと思われます。大学事務でもしばしば見かけられる、表計算ソフトで作られた生産性の低い文書が流通する「奇習」を終わらせるためにも、文書作成用のソフトやサービスの持つ構造化技術の使い方と意義を学んでいただければと存じます。

~~~~~  
木村修平先生プロフィール：立命館大学生命科学部生命情報学科准教授。専門分野は英語教育へのICT(情報通信機器)の利活用。

2012年度にLET関西で電子語学教材開発研究部会を起ち上げ、以降部会長を務める。Twitterアカウントは@syuhei。

清原文代先生プロフィール：大阪府立大学高等教育推進機構教授。専門分野は日本語母語話者のためのICTを活用した中国語教材の開発。2016～2017年度、中国語教育学会会長。

ワークショップ2/ 小中高教員のための英語発音指導法

＜英語発音教育研究部会＞ 有本 純(関西国際大学) 河内山 真理(関西国際大学) 6203教室(先着50名)

英語の発音指導は、新指導要領の実施により小学校でも必要になり、中高においてもスピーキングの基礎として重要な位置を占めるが、具体的にどう指導したらよいか判らないと戸惑う先生を多く見てきた。ここでは、個別音の導入と矯正の方法だけでなく、イントネーション、文強勢などのプロソディや音声変化などの扱い方も含め、児童・生徒に分かり易い指導法を、日常の授業の中でどう取り込むかについても提案する。

~~~~~  
有本純先生プロフィール：関西国際大学教育学部 教授。専門分野は英語音声学。ジーニアス英和大辞典で発音編集委員。LET関西支部で「英語発音教育研究部会」の部会長として2001年から活動し、発音指導法の普及を目指している。

河内山真理先生プロフィール：関西国際大学教育学部 教授。専門分野は英語音声学、英語教育学。著書に『英語のリスニングストラテジー』(共著、金星堂出版)、訳書に「子どもの発達と言語はどう発達するか」(共同訳、松柏社)などがある。

ワークショップ3/ 「主体的・対話的で深い学び」につながるリーディング指導

＜中高授業研究部会＞ 西本 有逸(京都教育大学) 戸田 行彦(滋賀県立守山中学校・高等学校) 6201教室(先着50名)

リーディング指導は奥が深く難しい。「主体的・対話的で深い学び」にどのように結実させるか、ミクロとマクロな視点から考えたい。戸田は発問作成の観点から、西本はペレジヴァーニエ(情動的体験)とミメシス(創造的模倣)という観点から理論的・実践的提案を行う。

~~~~~  
西本有逸先生プロフィール：京都教育大学教授。専門分野は英語教育学。ヴィゴツキーとバフチンを参照して英語科教育を構想する。

専門誌『ヴィゴツキー学』に論文を多数執筆。

戸田行彦先生プロフィール：滋賀県立守山中学校・高等学校教諭。京都教育大学を卒業後、滋賀県立高校2校を経て現職。中高一貫校である勤務校にてディベートを柱に四技能の向上を実践・研究中。現在、京都外国語大学大学院博士前期課程に在籍。

参加費 / LET 会員(無料)・非会員(一般 2,000円・学生 1,000円)

詳しくはウェブサイトをご覧ください <http://www.let-kansai.org/>

問合せ: LET 関西事務局 山西博之 [letkansai@gmail.com](mailto:letkansai@gmail.com)



## ＜午後の部＞ シンポジウム



### 「変革の時代における外国語教員の養成を考える: 求められる能力・知識・技能のあり方について」

粕谷 恭子 (東京学芸大学)

KASUYA Kyoko

鈴木 渉 (宮城教育大学)

SUZUKI Wataru

竹内 理 (関西大学)

TAKEUCHI Osamu

#### パネリスト 粕谷 恭子先生 「コア・カリキュラムが目指す外国語教員の能力・知識・技能」



東京学芸大学は、平成 26・27 年度に文部科学省から委託を受け「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究事業」に取り組み、初等・中等教育において外国語・外国語活動の授業を担当する教員の養成・研修のコア・カリキュラムを提案した。本発表では事業の概要を報告し、特に小学校の教員養成・教員研修で目指す教員の能力・知識・技能について扱う。新学習指導要領が公示され新たな英語教育の姿が明確になるにつれ、実際に授業を行う教員にどのような力が求められるのか、さまざまな考えがある。コア・カリキュラムを足掛かりに、広く議論を深めたい。

\*\*\*\*\*

東京学芸大学教育学部教授。聖マリア小学校英語科非常勤講師。放送大学講師。小学校英語教育学会副会長。NHK E テレ「プレキソ英語」監修。

#### パネリスト 鈴木 渉先生 「第二言語習得研究の視点からみる外国語教員の能力・知識・技能」



本発表では、これからの時代の外国語(英語)教員に求められる能力・知識・技能について、第二言語習得研究の視点から、話題を提供したい。まず、外国語について知っていること(明示的知識/宣言的知識)とそれを使って何かができること(暗示的知識/手続き的知識)は区別されていること、これらの知識の習得プロセスや授業における重要性について再確認したい。次に、教員の能力・知識・技能を向上させていく方法として、(1)外国語教員と第二言語習得研究者の共同研究、(2)教員自身のアクションリサーチを提案したい。本発表では、第二言語習得研究の理論や実験に留まらず、小・中・高等学校の英語指導についての具体例を交えながら、話題を提供したい。

\*\*\*\*\*

宮城教育大学准教授。Ph.D. (トロント大学オンタリオ教育研究所)。専門は英語教育学と第二言語習得理論。編著に『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』(大修館)がある。

#### コーディネータ・パネリスト 竹内 理先生 「外国語教育学・教育メディア論の視点から見る外国語教員の養成」



本発表では、変革の時代に対応できる外国語教員像を描くために、外国語教育学とメディア利用の視点から、様々な話題を提供していきたい。まず (1)評価についての知識に関して、パフォーマンス評価に着目して議論を起こしていく。また、これと関連して(2)フィードバックのあり方について、一例をあげて、効率と効果のバランスの観点から考察を加えていく。その後、(3)メディア利用の観点から、メディアそれ自身の効果よりも、その使い方を重要視するアプローチを示す。そして、これらのまとめとして、(4)教員養成における、理論的枠組みと教師自身の実証研究の大切さを述べ、経験だけでは対応しきれない新しい時代の教員のあり方と、その養成の方法について皆さんと議論していきたい。

\*\*\*\*\*

関西大学教授 博士(学校教育学)。専門は英語教育学・教育メディア論。編著書に『達人の外国語学習法』(草思社)、『よりよい外国語学習法をもとめて』、『外国語教育研究ハンドブック』(松柏社)などがある。小中高の検定教科書作成にも携わる。